

特 別
~13
4311
2 止





まれば吾邦法陣
 判友とのをこれ
 うらとんと
 さうど〜〜〜
 友のむはとわがこ
 とく依有る信は
 ひか〜のよらひか
 白里のふとと
 とてありと
 一人を我お
 といわおき
 中谷谷より
 本と〜て
 中谷の〜
 友さ〜お相
 友信の〜
 まりて信信の
 追手と〜
 今と〜山は控
 といひる中谷
 け山〜大力のき
 ある横川のかくま
 とあり〜
 信信を〜の〜
 在〜りまより
 ま〜
 持取の由あり〜
 夜とあり〜



越後高関
 信
 谷
 園
 畠
 書
 記



313
 4311
 22

<2002-14710>

招きより後従ひて
 けり人ぐ十六人候
 十七人等御前
 志願す御前
 こと成り候なり
 なほいかに十二
 なるのわけのこ
 かの風まけを
 谷とよみ出まひ
 なるかつかい
 わづろされこれより
 あり候人としを
 よろしき御前
 ありまほれ
 せよまほれ
 あらわらあ
 あり候人としを
 谷の村末の
 のこり候人
 あり候人としを
 あり候人としを
 あり候人としを



新島
 三十九年
 小田野長
 長男友太
 長男友太
 長男友太

てもむらさきのま
 きささきのお
 小の奥入り人
 今出川の色の
 あり候人としを
 あり候人としを
 あり候人としを
 あり候人としを
 あり候人としを
 あり候人としを
 あり候人としを
 あり候人としを
 あり候人としを
 あり候人としを
 あり候人としを



かくて依坂忠信ハ
 不承不承コレ
 何事ナリト云
 のありしが
 日比多連ある
 こと一妻女
 のりくふ
 妻のひやくふ
 び女なきふ
 とうとうとてい
 ませさあぐの
 うきあがり
 ちど一と忠信
 おんちりさせ
 とびわあき
 一がび女ヌの
 男ありき
 田んぼがこめ
 子んつん
 忠信が忠信
 忠信のゆせ
 くとやの
 友老有季の
 在京の
 旗本がこそ
 志か
 有季の忠信と



討ちり鎌倉
 その名を
 ひらきんと
 討ちの勢と
 信一とて
 まろんか
 りくは押考と
 忠信ハ
 板橋の上
 其の妻と
 柁とて
 伏居りしが
 びま戸をきくより
 もまろんか
 おきことの跡と
 足よりもみま
 びむんおれが
 難を三つと
 されりそれ
 もめごま
 せいせい
 今うこれ
 せいせい
 死切り
 いま





あづうい吉世を
 若かりしころ
 せしむるありて
 うつふふありて
 ねんかりむくたむ
 あま入さへ供
 けり
 しきふ令と報と
 うむいさくのふ
 あふ山守は
 さそられしう
 あふそね乃お
 かままういひりまふ
 人ふんごがあられ
 京政ひつれて
 小条府政のふか
 まつら附まふこねふ
 んとつくし
 後院の水田へ
 ささるあふれが
 はよりまふう
 下しつてまふ
 紀まふまふ
 終まふまふ
 ひまふまふ
 うまふまふ



あづうい吉世を
 若かりしころ
 せしむるありて
 うつふふありて
 ねんかりむくたむ
 あま入さへ供
 けり
 しきふ令と報と
 うむいさくのふ
 あふ山守は
 さそられしう
 あふそね乃お
 かままういひりまふ
 人ふんごがあられ
 京政ひつれて
 小条府政のふか
 まつら附まふこねふ
 んとつくし
 後院の水田へ
 ささるあふれが
 はよりまふう
 下しつてまふ
 紀まふまふ
 終まふまふ
 ひまふまふ
 うまふまふ

去不どに義経いふ
 ういふういふいふ
 おさしういふいふ
 おいして奥は身い
 たり秀ひつと
 このまはやと西
 ほうれいしんはまき
 とものういふいふ
 されいふいふ
 やういふいふ
 してたせまの
 義経よりいふいふ
 ちのいふいふ
 させまいふいふ
 かこまりいふいふ
 ちみよりいふいふ
 していふいふ
 山よりいふいふ
 ありていふいふ
 とれよりいふいふ
 くりいふいふ
 ありいふいふ
 といふいふ
 とがめいふいふ
 さめいふいふ
 ありていふいふ
 ちんよのいふいふ
 甲よりいふいふ
 ちんよのいふいふ



平権司

己よりいふいふ
 ういふいふいふ
 平ごんのいふいふ
 いふいふいふ
 おいしていふいふ
 ありていふいふ
 ちんよのいふいふ
 甲よりいふいふ
 ちんよのいふいふ



并慶

義経

まことに義行
 忠乃をさうゆの
 靴をどのうれひ
 申しかへて
 秀ひらひは
 若くはかへ
 入らしてあ
 りうかへ
 きくよりなき
 おひらひは
 礼儀をさう
 後二ふあ
 つらやも
 どのりはん
 彼とあつ
 いうくあ
 人をい
 めてあんと
 おひと
 あいなる



義經

道高忠因恭
 衛衛衛衛衛

まことに義行
 忠乃をさうゆの
 靴をどのうれひ
 申しかへて
 秀ひらひは
 若くはかへ
 入らしてあ
 りうかへ
 きくよりなき
 おひらひは
 礼儀をさう
 後二ふあ
 つらやも
 どのりはん
 彼とあつ
 いうくあ
 人をい
 めてあんと
 おひと
 あいなる



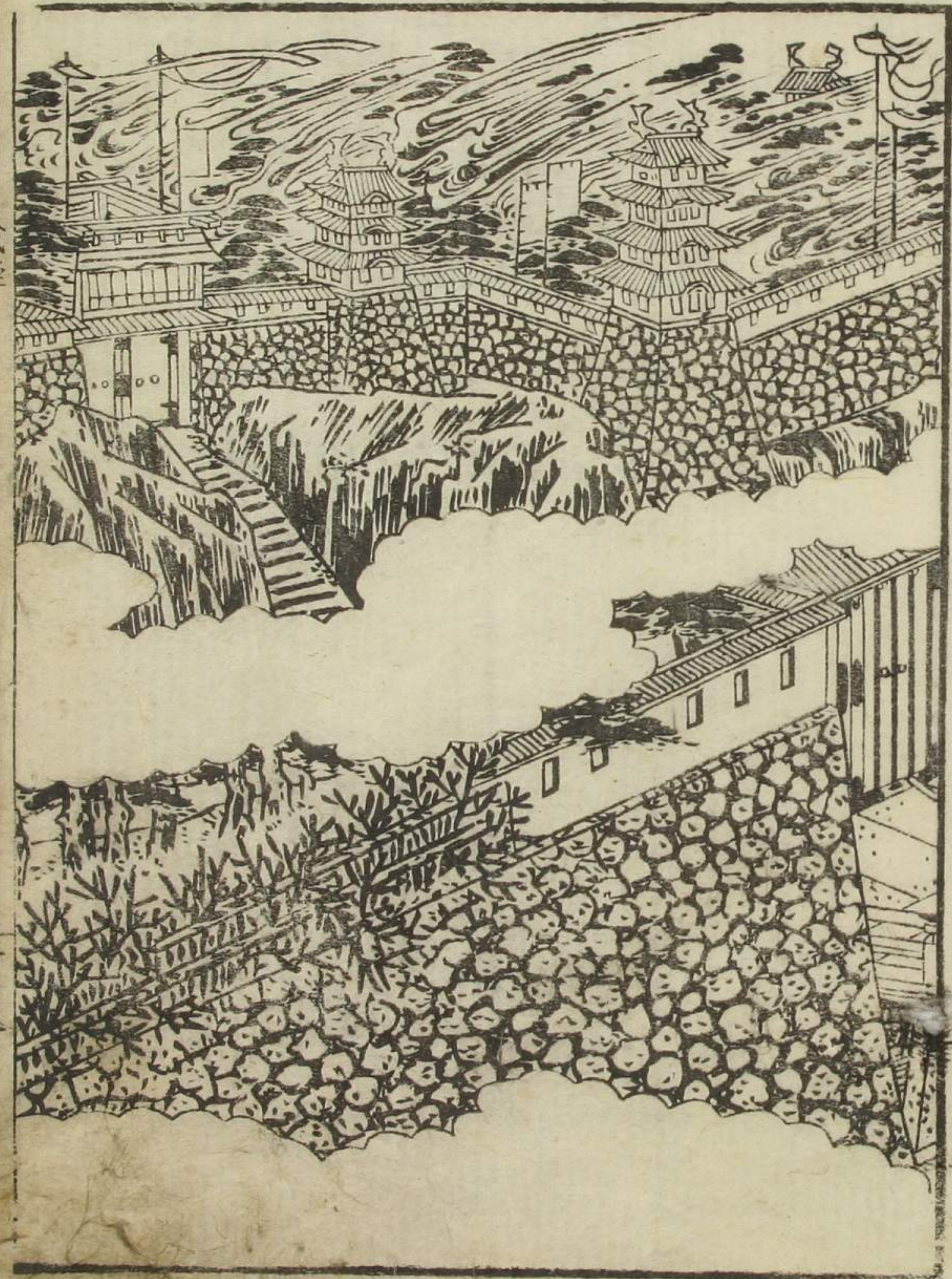
あんちらう
 こじんぎほ
 これとあふ
 とて壺の中
 より魚肉の
 とらさあ一切
 光出ーはホ
 ありあふ
 をとて一切
 あふりる
 英あり
 あふりる
 人万長せの
 二入ひくね
 異人もき
 ぬ失ふりり
 くりきほ
 ありと
 内とま
 ありと



海存
 赤慶

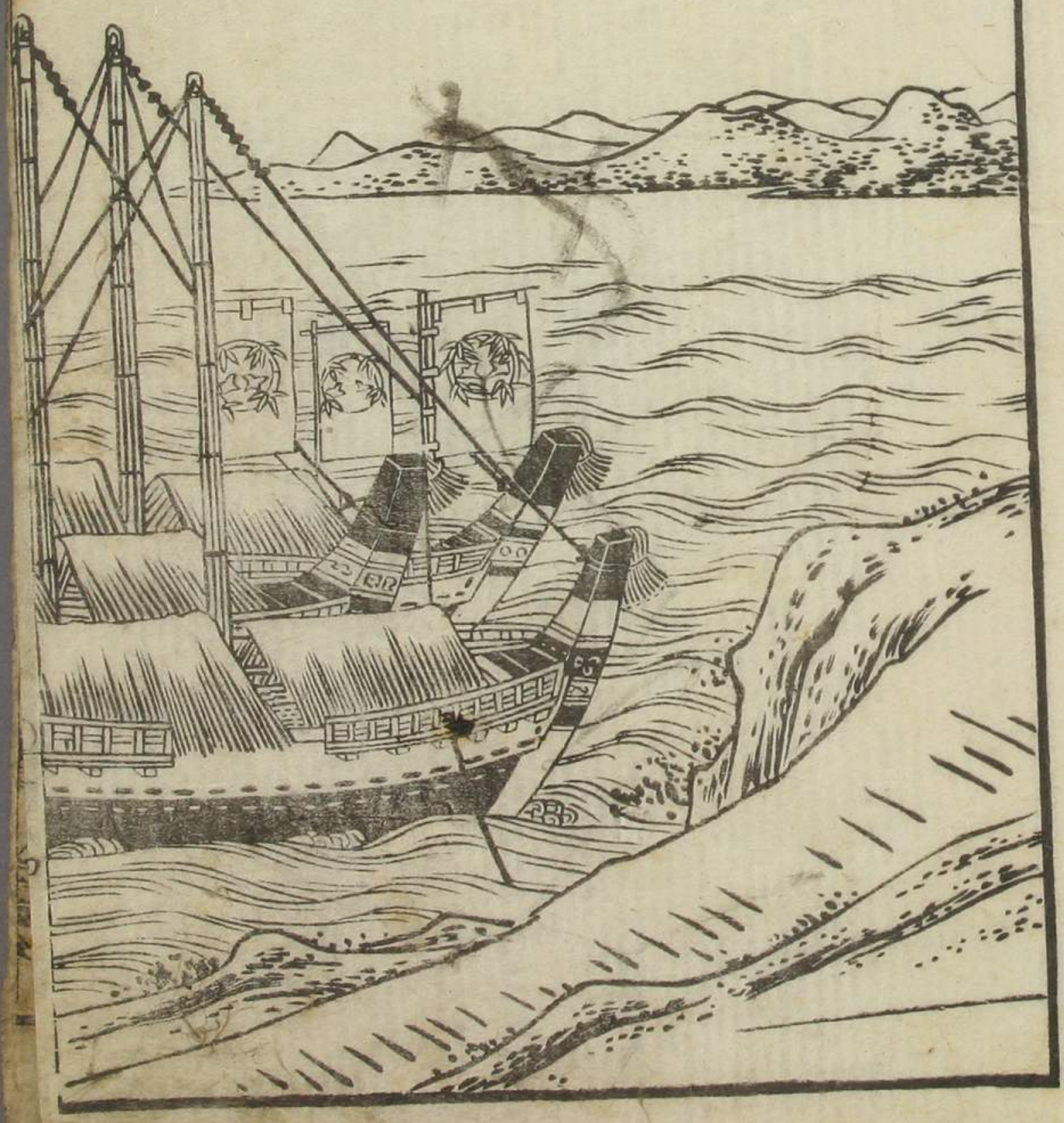
あつ時
 及
 舟
 山
 立
 人
 招
 評
 毎
 さ
 ひ
 ら
 兄
 と
 二
 こ
 又
 人
 常
 異



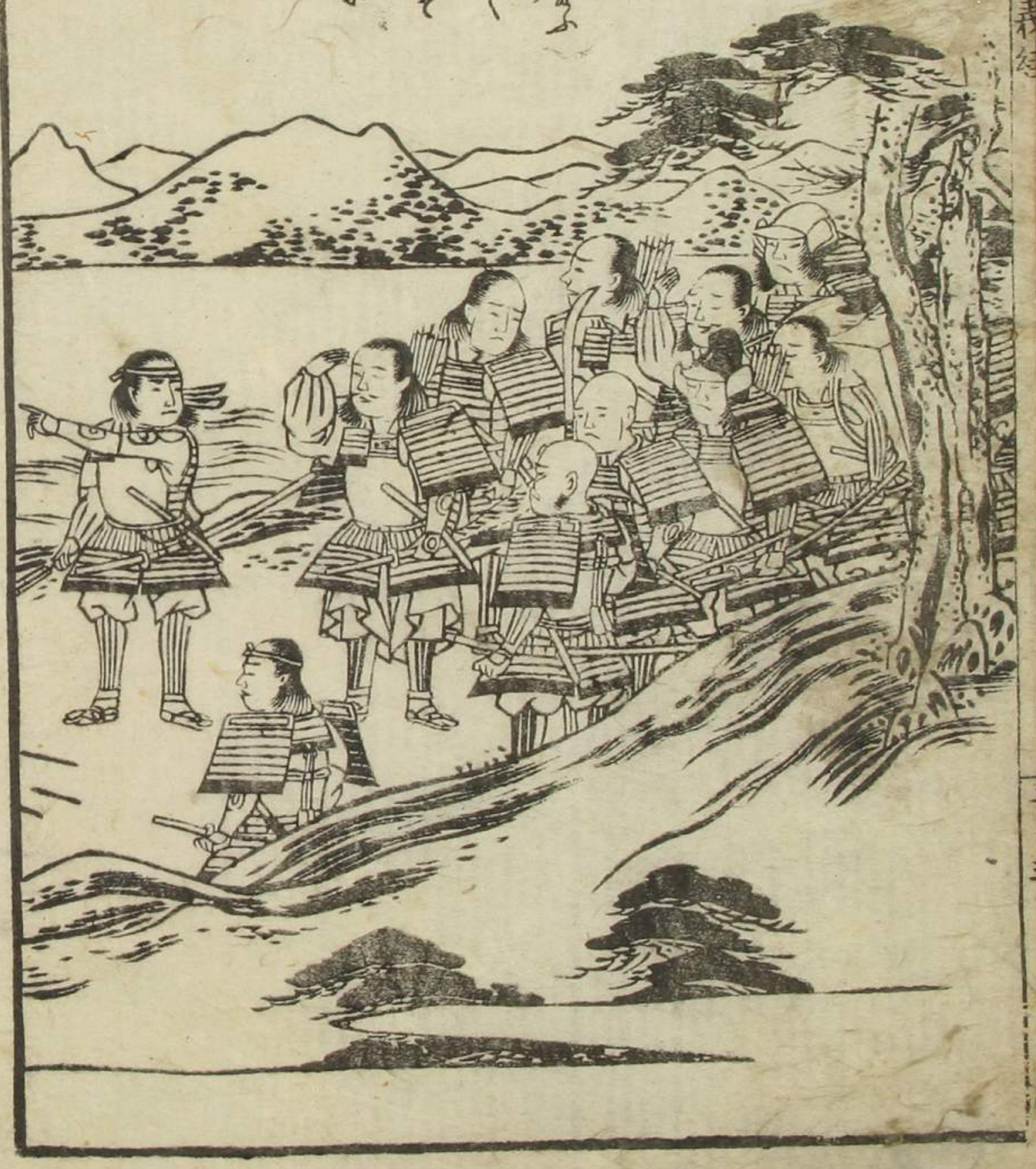


うま余より恭ひらう方へ義徳と對てまのせよと
 さいさんあよりんとりて尸あくらやとやま
 恭ひらうちんへいられのまうの由
 とぞりまうあうらりられの今
 恭ひらうのふけわらあやんへいとのま
 及ひられの恭ひらうあやんへい
 およそ守りやうまうして一門をあり
 同心させ高敏をせりあやんと決ませし
 せひもあきまひらう父の
 遂内のせおこそは附あや
 若とくまひらうまの別友及と
 うまゆまらふとそと軍場のま
 せんまことして死ありま
 いとまひらうあやの由
 まりけのなまをいれ
 別友のくあまはらう
 たまざりりりまのあや
 うんくのまをいれこの
 こまをまらうりて附
 うつさ守まはれと
 去ま一戦まらう
 入一門は義徳の
 勢つとあ
 城中へは
 入
 が

おがしき
 ころやせの
 見すよらこひて
 のをきこみおこり
 のりら秀秀傳が
 西の村いんぞ
 渡海の家門と
 ありせりそれより
 義隆守もくと
 ぶとあか
 しくりて
 西王とあり
 百金銀の
 長壽と
 こゆらふ
 今も尚も
 神具と
 義隆大の神
 とありあまりて
 あると
 めたこられ



渡りこらまち
 ちと城まらぬ
 夜川の一の橋よ
 永きま
 ちうらここと
 尺へうをより
 くれい
 飛ありま
 城中央ありま
 てうけいんれ
 よ一仔ありひ
 おのこま
 まて自害し
 神いんこそり
 ありんこ
 夜首とあり
 うまろくをり
 後やとひら
 言彼の城平
 へてあり
 定よれ
 よ一の
 朝臣長きよ
 けるま
 こらくく
 美藤の
 まらして



千一騎之圖



平岡八郎 弘常

龜井六郎 重清

畠井治郎 景久

赤井藤太 景俊

鎌田藤治 光政

鎌田藤太 盛政

江田源三 弘基

武藏坊 弁慶

源八兵衛 弘綱

佐藤 五衛門 忠信

義經之家一人騎當



御殿喜三 太

堀彌太 郎 景光

備前守 成春

鷲尾三郎 義久

增尾十郎 兼房

常陸坊 海存

伊勢三郎 義盛

佐藤 五衛門 忠信

駿河治郎 清重

鈴木三郎 重家

江都縱畫生

旭朗并勝春章圖

子存

繪本伊藤傳記

全部五冊

同筆

追而板行

繪本威德天神記

五冊同筆

追而板行

天明七年歲次丁未春

東都書肆

小傳

鶴屋喜右衛門

丁子屋平兵衛販



